

グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS)への移行

[| GIPS \(日本語版\) |](#) [| GIPS 改訂の主要ポイント |](#) [| 新旧対照表 \(GIPS 日本語版 対 SAAJ-IPS\) |](#)

日本証券アナリスト協会では、資産運用会社による顧客に対する投資パフォーマンス記録の公正な表示と完全な開示を確保するために、共通の自主ルールとして「日本証券アナリスト協会投資パフォーマンス基準(SAAJ-IPS)」を定めていますが、2006年1月1日付をもってSAAJ-IPSから世界共通の「グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS)」に切り替えることとなりました。

(注) 1999年のGIPSの制定以来、これまで既に、日本を含む25カ国以上がGIPSを自国基準のコアとするCVG (Country Version of GIPS) またはGIPS (英語版またはTG) を採用しています。

1. GIPS (日本語版) への切替え

本件は、GIPSを所管する投資パフォーマンス協議会(IPC、事務局：米国に本部を置くCFA協会)により、SAAJ-IPSのコア基準となっているGIPSの基準内容の改善と対象資産の拡大(不動産、プライベート・エクイティの投資パフォーマンス提示に関する新基準の追加)が行われるとともに、各国においてはGIPSそのものの英語版、またはGIPSを当該国の言語に翻訳したTranslation of GIPS (TG)のいずれかを採用する方式を定めたことに対応するものです。当協会では、2006年1月1日からTGとしての「GIPS(日本語版)」を採用します。

2. 資産運用会社の準拠状況等

これまでSAAJ-IPSに準拠していた資産運用会社は、2006年1月1日以降の運用実績について改訂後のGIPSへの準拠が義務付けられます。ただし、遡及適用はなく、2005年12月31日以前の運用実績についてSAAJ-IPSに準拠していれば、GIPSに準拠している旨を、表明することができます。

一方、わが国では、信託、生保、投資顧問等の大手の資産運用会社のほとんどが既にSAAJ-IPSに準拠しており、これら準拠会社が企業年金資産残高総額に占める割合は9割に上ります。こうした状況から見て、GIPSへの切替えも円滑に進み、国際的にも資産運用会社の投資パフォーマンスの比較が一層容易になり、ひいては顧客からの信認を高めることにつながることを期待されます。

3. GIPS への切り替えに伴う主な変更点

現行のSAAJ-IPSに規定されている不動産およびベンチャー投資に関するわが国独自の基準は廃止され、GIPSに新たに導入された不動産、プライベート・エクイティに関する基準に置き換えられる。

現行のSAAJ-IPSに規定されている税引き後パフォーマンスに関するわが国独自の基準は廃止される。

現行SAAJ-IPSに組み込まれているGIPS基準について、基準準拠に際しての資産運用会社の責任をより明確にし、運用報酬率表等、顧客に対する開示事項を拡充。

SAAJ-IPSの名称はなくなり、「GIPS(日本語版)」となる。

4. 日本の実務慣行との関係

GIPSの改訂が確定する過程において、当協会では、改訂草案について日本の関係各方面から寄せられた意見を踏まえて2004年7月にIPCに意見書を提出するとともに、草案修正プロセスにおいてもIPCに派遣している日本代表を通じて数次にわたり意見表明を行ってきております。したがって、今般の改訂内容は日本の実務慣行との間で矛盾はないものと考えられます。

5. 当面の課題

ラップフィー/SMA(Separately Managed Account)に関する新基準とガイダンス・ステートメント、税引き後パフォーマンスに関する基準とガイダンス・ステートメント(北米、イタリア各市場に適用される投資パフォーマンス計算・提示における税金の取扱いに関する基準)がCFA協会より公表されていますが、IPCにおいて取扱い方針が固まっておりません。したがって、今回の当協会の「GIPS(日本語版)」にも含めておりませんが、これらについては今後の動向を見定めたいうえで、改めて採用の可否を検討する予定です。

以上

問合せ先:(社)日本証券アナリスト協会(担当:刈田、森)

TEL:03-3666-1515 FAX:03-3666-5843

URL:<http://www.saa.or.jp>